

「授業備品」N091 1.9.17 「キーワードの再掲示」

「授業備品」N018 で「キーワードの掲示」をとりあげた。再度、キーワードについて確認をしておきたい。キーワードとは、「教科用語（学習用語）の表現」と、とらえることができる。

1 学習指導要領、数学・算数の解説から

(6)数学的活動を行う際に配慮することはどのようなことか。

〔解説P 23・24 数学の学習過程においては、上記の①と②の過程を意識しつつ、生徒が目的意識を持って遂行できるようにすることが大切である。また、**各場面で言語活動を充実し**、それぞれの過程や結果を振り返り、評価・改善することができるようにすることも大切である。

上記(4)で示した内容は数学の問題発見・解決の過程全体を示しており、「数学的活動を通して」とは、単位授業時間においてこれらの過程の全てを学習することを求めるものではないことに留意する。なお、中学校数学科においては、数学的活動を通して主体的・対話的で深い学びを実現するために、その主要な側面として、①日常の事象や社会の事象から問題を見いだし解決する活動 ②数学の事象から問題を見いだし解決する活動 ③**数学的な表現を用いて説明し伝え合う内容**の三つを〔数学的活動〕として各学年の内容に示している。

2 小学校算数科の視点から

2 小学校算数科における授業づくりのポイント（解説書を熟読すると）

算数科では「数学的な見方・考え方」を働かせながら、日常の事象を数理的に捉え、算数の問題を見いだし、問題を自立的、協働的に解決し、学習の過程を振り返り、概念を形成するなどの学習の充実を図ることとされている。指導にあつての視点は次の点である。

〈主体的な学びの視点〉

・子供自らが、問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな問いを見いだしたりする。

〈対話的な学びの視点〉

・**数学的な表現を柔軟に用いて表現し、それを用いて筋道を立てて説明し合うこと**で新しい考えを理解したり、それぞれの考えのよさや事柄の本質について話し合うことでよりよい考えに高めたり、事柄の本質を明らかにする。

3 教科内容からキーワード（学習用語）が出る

学習指導要領をよく読むと、教材内容と教科内容の二つを読みとることができる。私たちは、これまで教材研究をすることが重要であると指導を受けてきた。その通りであるが、キーワード（学習用語）の視点からみると、教科内容がそれおれに該当をする。

「A君はリンゴを8個、B君はリンゴを7個食べました。あわせて何個になりますか。」この問いの「りんご」や「8個」「7個」は教材内容であり、この問題を解くためのキーワードではない。「**繰り上がる**」「**1位数+1位数**」「**位をそろえる**」等がキーワードである。すなわち、**教科内容のことである。この教科内容は、どの教科に当てはまり、授業の中で何回も使う教科内容、すなわち学習用語ととらえることができる。**学習指導要領を熟読することと併せて、授業で使う重要用語をキーワードとして掲示しておくことが重要である。キーワードは、末履修のことも併せて掲示する必要があるからだ。そのことを子供たち自身に、学習の中で気付かせることが大切である。